

＼キュウリに続きイチゴ生産でも／ スマート農業実証事業スタート 県内では唯一！ 国のスマート農業実証プロジェクトに採択

JA西三河、農研機構、愛知県、明治大学などJA・行政・研究機関・関連企業でつくる「日本をリードするJA西三河いちご部会におけるスマート農業実証コンソーシアム」は7月5日、【スマート農業技術の開発・実証プロジェクトキックオフ会議】を開きます。

キックオフ会議は、同コンソーシアムが、国によるスマート農業関連実証事業の採択を得て進める実証事業「JA西三河いちご部会における生産から販売のデータ駆動一貫体系の実証」のスタートとして行うもの。コンソーシアムの関係者約40人が集まり、意見交換や意識の共有を行います。

この実証事業では、①局所環境制による収量の安定や、海外依存度の高い農業資材の削減、②選果システムの導入による収穫調製労力削減、③画像処理による出荷量予測を用いた安定販売を通して、より高度化された農業経営実証・普及を目指します。

愛知県内で同実証事業に採択されたのはこの事業のみ。県下トップの生産規模を誇る西尾市で、日本のイチゴ生産の最先端に行く実証事業がスタートします！

■取材対応日■

【日時】

7月5日(水) 午後2時開始

【場所】

JA西三河本店 5階大ホール

(西尾市寄住町下田15番地)

【参加者】

- ・国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
野菜花き研究部門所長 松元哲氏
- ・東海農政局 地方参事官 小林康弘氏
- ・愛知県西三河農林水産事務所所長 伴充晃氏
- ・JA西三河代表理事組合長 齋藤種治氏

その他、コンソーシアム関係機関の代表者・担当者など
約40人(うちWeb出席9人)

■コンソーシアムの構成機関■

- 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)
- 国立研究開発法人 物質・材料研究機構
- 愛知県
- 愛知県農業総合試験場
- 愛知県西三河農林水産事務所
- 明治大学
- NPO東海生研
- ヤンマーグリーンシステム(株)
- PLANT DATA(株)
- ホルトプラ(合)
- JA西三河
- JA西三河いちご部会生産者
齋藤翔太氏、外山和広氏、石原広貴氏



【お問い合わせ・ご連絡先】
JA西三河(西三河農業協同組合)
〒445-0073 愛知県西尾市寄住町下田15 企画室企画課 広報担当:尾形怜美
TEL:0563-56-5214 担当者携帯:070-1414-4251
HP: <http://www.ja-nishimikawa.or.jp/> Eメール: kikaku@ja-nishimikawa.com

※ このニュースリリースは、西尾市の記者室在籍報道機関およびJAグループ愛知記者会あてに発出しています。
また、同内容をJA西三河ホームページの「報道機関向け資料(ニュースリリース)」ページにも掲載しています。
写真や資料・記事の提供も行いますので、お気軽に上記連絡先へお問い合わせください。



実証事業について

～キュウリからイチゴへ 高度な農業経営の実証・普及を目指す～

■ 当産地における実証事業の取組み

● … 実証事業名
カッコ内 … コンソーシアム名

＼キュウリ生産の実証スタート！／
令和元年～2年度

● ICTに基づく養液栽培から販売による 施設キュウリのデータ駆動経営一貫体系の実証

(日本をリードする施設キュウリスマート農業実証コンソーシアム)

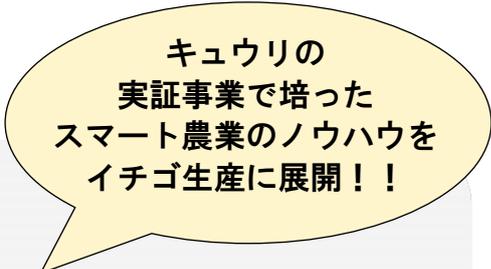
- 実証内容
- ① 全国的にも事例の少ない、施設キュウリ養液栽培の実現・周年栽培化
 - ② 画像処理ロボットを利用したキュウリ生育量データの取得、
環境測定データをAIにより解析した生育予測
 - ③ 生育予測の出荷量予測・労務管理への活用

令和3年～4年度 **愛知県唯一！**

● JA西三河における生産から流通・販売のデータ駆動一貫体系の実証

(日本をリードする施設キュウリスマート農業実証コンソーシアム)

- 実証内容
- ① 出荷量予測を用いた安定販売
 - ② 需要予測を用いた袋詰め形態の販売
 - ③ 出荷量予測を用いた配送の適正化の実現



＼イチゴ生産の実証スタート！／
令和5年～6年度 **愛知県唯一！**

● JA西三河いちご部会における 生産から販売のデータ駆動一貫体系の実証

(日本をリードするJA西三河いちご部会におけるスマート農業実証コンソーシアム)

■ 実証目標 ■

**燃油消費量を
25%削減**

実証内容：
環境分布測定や局所環境
制御により収量安定を図る
ヒートポンプ(地下水熱源)
を活用し、海外依存度の高
い農業資材を削減する

**外部雇用者が従事する
パック詰め作業の投下労働
時間を20%削減**

実証内容：
選果システム導入により収穫
調製に係る労力を削減する

**経営収支の
5%改善**

実証内容：
画像処理による出荷量予
測を用いて安定販売の有
効性を検証する

【参考】

「スマート農業実証プロジェクト」とは、ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用した「スマート農業」を実証し、スマート農業の社会実装を加速させていく事業です。スマート農業技術を実際に生産現場に導入し、技術実証を行うとともに、技術の導入による経営への効果を明らかにすることを目的としています。

令和元年度から開始され、これまでに全国217地区(令和5年度は12地区を採択)で実証が行われています。